

令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立きのくに青雲高等学校（定） 学校長名：阿形 武芳

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の抱える様々な課題解決を支援し、生徒自身の自己肯定感や自己有用感を高め、地域社会に貢献でき、自らも幸福な生活を営むことができる力を育成する学校。 地域に根ざし、勤労と勉学を両立させ、社会に貢献できる心身共に健全な自立した生徒。
本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を徹底し、生徒の実態やニーズにあった授業の充実に努める。 適切な職業観・勤労観を育てるキャリア教育を充実させる。 カウンセリングマインドに基づいた生徒指導を行い、地域社会・外部関係機関との連携を深め必要な支援を行う。
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を徹底し、学ぶ楽しさや「わかる・できる」を実感させるため、生徒の実態やニーズにあった授業を行う。 自ら社会に参画しようとする意識を育て、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自己実現を図る力を養う。 基本的な生活習慣を確立するとともに、他者との協調や協働を図りながら社会で生きていける力やスキルを育む。
学校評価の結果と改善の方法	育友会総会等を通じて保護者への周知を図る。ホームページに掲載する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価	
重 点 目 標					令 和 4 年 2 月 実 施	
年 度	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	本校入学生徒の多くは、学習に対して強い苦手意識をもち自己肯定感が低く、入学時から授業についていけず学習態度が消極的になり、学年が進行しても授業への取り組み意欲が見られないことが多々ある。このことが、学力向上を阻み、卒業率が上がらない原因の一つになっているものと考えられ、解決すべき課題である。	生徒の実態にあった授業改善や、主体的な学習を促す取組が組織的に十分行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に即した授業内容を工夫し、評価を含めた授業改善で達成感や自己肯定感を養うことを目指し出席率・卒業率を向上させる。 教育内容を精選し、社会貢献や実社会で役立つ学力の向上を目指す。 公開授業や研究授業等を通じて、指導方法の工夫や改善を図り、言語活動の充実を中心に据えた魅力ある授業の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 達成感や自己肯定感をもたせる授業を実施する。 卒業後に自立した市民として役立つ力を育むことを意識した授業を実施する。 公開授業または研究授業を、教員一人あたり年1回以上実施する。 授業において「書く」「話す」活動を中心とした言語活動を充実させる。 	各教員は、生徒が達成感を感じられる授業を意識し取り組んだ。卒業率は前年度と比較してわずかに減少した。	卒業率は、年度当初の卒業予定者の約89%であり、前年度よりわずかに向上した。次年度以降も卒業率の改善に向けて粘り強く指導を行っていく。また、言語活動や学び直しを取り入れた授業を中心として、生徒が達成感や自己肯定感を得られるよう、工夫と取り組みをより充実させていきたい。
2	生徒の幅広い進路希望に対応するためには、キャリアカウンセリングを身に付ける必要がある。本校のキャリア教育は、教育活動全体を通して行っており、指導力の向上を図ることが求められている。一人でも多くの生徒が進路先を決めて卒業するための対策として、早い段階から就職試験や進学試験を受験する生徒の学力向上およびコミュニケーションのスキルアップを図る取り組みを実施する必要がある。	生徒一人一人の職業観・勤労観を高め、自身の進路目標を明確に持つことができているか。年間行事計画の中にキャリア教育の視点をもち活動内容を取り入れられているか。進路目標を達成するために授業の中で、学力の向上に関する取り組みが行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談や面接指導等を積極的に行い、進路希望の実現を目指す。 企業説明会、進学説明会、オープンキャンパス等への積極的な参加を促し、進路ガイダンスやキャリア講演会等を通して生徒に明確な進路目標を持たせる。 進路LHRや個別相談等でサポートステーション和歌山と連携し、生徒の進路意識を高める。 各教科等において、キャリア教育の視点をもち、生徒の進路目標が実現できる授業の実践に取り組む。「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業を展開すると共に、コミュニケーション能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任や進路指導担当者との面談を密に行う。 就職指導員を活用し、希望の実現を図る。 進学希望校への体験入学等や就職説明会等への参加を促し、進路決定へとつなげる。 進路ガイダンスおよびキャリア講演会の更なる充実を図る。 サポートステーション和歌山と連携し、多面的に生徒をサポートする。 各教科等でキャリア教育の視点をもち、他者とのグループワークによる参加型の活動を取り入れ、経験することにより、コミュニケーション能力の向上を図り、将来の職業観、勤労観を持たせるようにした。令和4年度入学生より実施される「キャリア・パスポート」を本校用に作成した。 	生徒や担任、必要に応じ保護者とも面談を行い、就職指導員も交え、進路希望の実現を図った。今年度も新型コロナウイルスの影響で進路ガイダンス等は実施出来なかったが、「進路便り」を発行し、動機付けを行った。就職関係では応募前職場見学に必ず参加するように指導した。また、進学関係でも感染症対策を施したオープンキャンパスの参加を促し、四大、専門学校共に指定校推薦以外でも一定の合格者数を出した。	入学後、早い段階から生徒に将来への進路選択に意識を持たせ、進路目標を設定させることが重要であり、今後の課題である。引き続き基礎学力の向上が望まれる。現在、3、4年生を対象に一般常識テストを実施しているが、自分自身の学力を客観的に確認する意味でも、今後も継続して実施して行く必要がある。生徒のコミュニケーション能力を高める事が課題である。そのためには引き続き、グループワークによる学習活動や学校行事、HR活動等で経験を積み重ねて行く事でコミュニケーション能力の向上を図って行きたい。
3	不登校生徒が多数在籍している状況から、きめ細かな指導に尽力してきた。近年は、問題行動が多様化するともに精神的に未発達・不安定な生徒や特別な支援が必要な生徒の入学も増加しており、個に応じた指導が一層求められている。また、家庭環境が複雑化してきており、保護者との連携が取りづらいう状況も多い。毅然とした指導とともに、生徒、保護者に寄り添った指導を心がける。自転車や原付自転車の交通安全指導を充実させる。喫煙防止指導、薬物乱用防止指導に取り組む。生徒が安心して学習に取り組める学習環境の整備に取り組む。	多様化してきた生徒一人一人に対する適切な指導を行っているか。教職員や関係機関との連携を密に指導にあたり、保護者との信頼関係を深めるような指導を通して学校と地域が連携・協働ができているか。交通安全教育、喫煙防止指導、薬物乱用防止指導が組織的に行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> 現職教育、昼夜別会議等を活用し、指導方針・生徒の状況等について全教職員の共通理解を図り、多様な問題行動に対する適切な指導方法等を組織的に検討していく。教員のカウンセリング力を高め、不登校克服を更に実現する。 生徒が抱える課題の早期発見及び登校・授業参加の動機付けのため、校内に生徒が相談できる「居場所」を設置し、生徒支援の充実を図る。 SC、SSW等を更に活用し、関係機関との連携に努め、迅速・適切な対応を図る。 保護者との連絡を密にし、共通理解のもと生徒の指導を行う。また、地域との連携を図る。 交通マナー指導を充実させる。また、喫煙防止、薬物乱用防止指導に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒情報を共有するために、職員会議等で常に情報交換を行ったり、「個人記録カード」の活用による充実を図る。 中途退学率10%以下を達成する。 不登校回復率を更に高める。 「居場所」により、生徒支援の充実を図り、不登校の解消や授業参加率を高める。 支援委員会を開いて、定期的な情報交換を行い、関係機関との連携等により問題解決を図る。 保護者との連絡、面談や家庭訪問の機会を増やす。 学校運営協議会との連携を図る。 毎朝の通学指導を行う。 交通安全マナー教室や交通安全テストを実施し交通安全意識の向上を目指す。 	個人記録カードにより、卒業までの一貫した指導ができるようになった。現職教育で知識・情報の共有を行った。また、「やすらぎの部屋だより」の発行で教育相談班の活動を紹介し、子育て支援父母の会では、SC・SSWを交えた保護者からの相談、活発な情報交換ができた。支援委員会では、SC・SSWを交えたケース会議を開き、より具体的な取り組みができた。外部機関職員と連携した「居場所事業」は生徒の居場所の一つとなった。	多様化する生徒に応じた支援を行うために、外部機関とのさらなる連携の充実を図るとともに、保護者等との連携を強化できるための機会の確保に努め情報提供を行う。また、一人一人の生徒に適した対応を行うために、現職教育、情報提供等の充実を図りたい。生徒理解に努め、表出する問題行動を未然に防ぐ指導を行う。毅然とした指導とともに生徒、保護者に寄り添った指導を心がける。喫煙防止指導を積み重ね、生徒の意識を向上させる。日頃より交通安全に関する指導を行い、命に関わる事故が発生しないよう指導する。また、生徒が授業に参加し、学力向上するよう、環境整備に努める。

学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>○以下の評価項目について、高い評価をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の教育目標はわかりやすく示されているか。 本校の生徒は明るく生き生きと学校生活を送っているか。 本校は保護者や地域の方々との連絡・連携がうまくとれているか。 本校には他校にない特色があるか。 本校は生徒に対して分かりやすく充実した授業を行っているか。 本校では、基本的な生活習慣や規範意識を身に付けるため適切な指導が行われているか。 本校では、生徒が将来社会人として生きていくための取組は十分行われているか。 本校の学校行事等は充実しているか。 本校では、進路に関する情報提供に努めているか。 本校では、生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われているか。 本校では、校舎、校庭、教室の環境美化や整理整頓ができています。 本校の施設・設備が充実しているか。 <p>○以下の評価項目について、次年度に向け改善を要するとの評価をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動に保護者や地域の意見を取り入れられているか。 本校の生徒会活動や部活動は活発であるか。 <p>○以下の意見をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、オンライン授業が多くなってきているが、学校に通学することで、学力向上や卒業後の社会生活・友達関係を養うことも大切かと思う。今後も勉強とクラブ活動も楽しく高校生活を送れるよう期待します。 	